

Sustainable Report No.170

熊と人が共存するためには なにが必要なのか



サステナブルレポートとは、サステナビリティを指標に社会課題や環境課題からテーマを選定し、それらの背景・ソリューション事例・将来への展望などを考察する独自の調査報告書です。
小川電機グループは、全従業員ひとりひとりが本レポートを作成・発信する取組みを行っています。

■ 課題の現状／経緯／影響

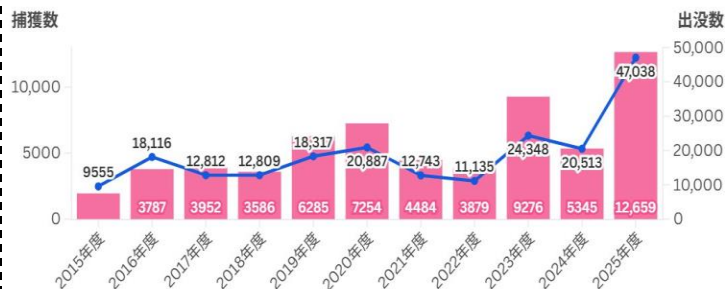
- 熊の出没数、被害数、駆除数が増えているのは熊が増えたというより**森の熊の生息地の減少が影響**しているのである。
- 温暖化によりドングリの豊作と凶作の間隔が短くなり、ドングリの全体としての量が増え、そのためにクマの出産間隔が短くなり、クマが増えやすくなるのである。近頃はブナなどのドングリ類の凶作が広範囲で起きており、山中のエサ不足が町に出る熊の出没増加につながっているのである。
- 熊は森林生態系における頂点捕食者であり、食物連鎖のバランスを保つ上で重要な役割を果たしており熊が減少すると、種子の散布や魚の捕食など、生態系の多様性を維持するための自然なメカニズムが失われ、**森林の更新速度が低下**する可能性がある。また、熊が減少することで、シカやイノシシなどの草食動物が増えすぎて**生態系のバランスが崩れ、農作物への被害や土砂災害のリスク**が高まるのである。

■ 年間別熊の捕獲数と出没数

年度別のクマの捕獲数と出没数

2025年度は11月までの数字

■ 出没件数 ■ 捕獲数



出典：[クマの目撃・出沒・人身被害・捕獲数の推移をまとめた：読売新聞](#)

■ 熊絶滅による主な影響

観点	熊絶滅による主な影響
生態系	森林再生の停滞・中型動物の増加・病害の拡大
社会	山林開発の加速・災害リスク増加
文化	自然観・信仰・倫理の喪失
国際的	生物多様性条約・倫理的批判

出典：[熊がいなくなった森——「絶滅」がもたらす静止と崩壊 - SAITO ARCHI NOTE \(齋藤建築ノート\)](#)

▶ NEXT : 野生動物と共存する法制度

■ 実行者／解決事例／残る課題

● 一般財団法人 日本熊森協会

● 奥山広葉樹林化運動により、熊たちがつくる水源の森を取り戻す活動。自然保護団体の委員として行政会議で意見。

● 捕殺ではなく、クマと人が棲み分け、共存できるようにするための対策支援にこそ予算をつけるべきである。

今は捕殺中心に予算をあてられていますが、捕殺中心から、被害防除と奥山餌場再生、棲み分けに重点を移して、何よりも人身事故を減らし、**徹底した棲み分け共存**を取り戻す対策が必要である。

■ 奥山のナショナル・トラスト

奥山のナショナル・トラスト

ナショナル・トラストは市民がお金を出し合い、豊かな自然を買取って、開発などから守る活動です。

1. 滋賀県麻生林平出の森 215ha （2022年取得）
2. 兵庫県豊岡市但東町 10ha （2016年取得）
3. 高知県香美市 24.35ha （2018年取得）
4. 高知県香美市「佐保の森」 22ha （2018年取得）
5. 兵庫県養父市 84.22ha （2019年取得）
6. 福島県会津若松市 7.25ha （2020年取得）
7. 東京都西多摩郡奥多摩 17.5ha （2023年取得）
8. 新潟県阿賀町 996ha （2024年取得）

出典：[森を守る | 日本熊森協会](#)

■ 理想の熊対策



出典：[政府がクマ被害対策パッケージを発表 | 日本熊森協会](#)

▶ NEXT : 適切な捕獲と「人と熊のすみ分け」の徹底

■ 残る課題の原因／理想／企業施策

- もっと多くの自然保護団体の意見を行政に届け、**一人ひとりが向き合わなければいけないのである。**
 - 熊との共生は、行政や専門家だけの課題でなく、私たち一人ひとりが知識を付けマナーを理解し、支援をすることである。
 - 昨今の熊被害の問題について本質を見極め、熊が減少した際の影響をもっと人々に伝えなければいけないのである。
- 熊の出没情報や生態に関する知識を住民と共有し、被害に遭わないための行動を促すことが重要であり、**自治体は様々な媒体**を活用し継続的な注意喚起と啓発活動を行う必要がある。

■ 熊対策に向けての活動内容

活動内容	目的	具体的な手段
情報共有	出没状況を周知	広報誌、SNS
緊急情報	迅速な危険伝達	防災無線、メール
学習機会	知識と意識向上	住民説明会、研修
教育活動	次世代への伝承	学校での講習
現地表示	視覚的な注意促す	看板、ポスター

出典：【最新版】熊被害対策自治体実践事例から学ぶ、効果的な被害防止策 | 株式会社クリューシステムズ

■ 私たちの熊対策の具体例

誘引物	対策の具体例	住民の役割
生ゴミ	密閉容器で保管	収集日厳守
収穫残渣	速やかに処理	畑の清掃
果樹	収穫を徹底	落下果実除去
ペットフード	屋外放置避ける	屋内保管
空き家	定期的な巡回	管理と清掃

出典：【最新版】熊被害対策自治体実践事例から学ぶ、効果的な被害防止策 | 株式会社クリューシステムズ

本レポートをご覧いただき、ありがとうございました

■ 参照・引用資料

- ・環境省,「クマ類の生息状況、被害状況等について」,2026年03月11日 (URL) [kuma-situation.pdf](#)
- ・一般財団法人 熊森協会,「森と野生動物の現状」,2026年03月11日 (URL) [野生動物の危機 | 日本熊森協会](#)
- ・発信者,「最新版 熊被害対策自治体実践事例から学ぶ効果的な被害防止策」,2025年12月11日 (URL) [【最新版】熊被害対策自治体実践事例から学ぶ、効果的な被害防止策 | 株式会社クリューシステムズ](#)

■ サステナブルレポートに関するお問い合わせ先



小川電機株式会社

〒545-0021 大阪府大阪市阿倍野区阪南町2丁目2番4号

tel:06-6621-0031(代)

- ・本レポートに掲載された内容は作成日における情報に基づくものであり、予告なしに変更される場合があります。
- ・本レポートに掲載された情報の正確性・信頼性・完全性・妥当性・適合性について、いかなる表明・保証をするものではなく、一切の責任又は義務を負わないものとします。
- ・本レポートの配信に関して閲覧した方が本レポートを利用したこと又は本レポートに依拠したことによる直接・間接の損失や逸失利益及び損害を含むいかなる結果についても責任を負いません。
- ・本レポートに関する知的所有権は小川電機株式会社に帰属し、許可なく複製、転写、引用等を行うことを禁じます。